

子どもの意見が反映された学校づくりを！

- 子どものことは子どもに聞く。子どものことは子どもが一番よく知っています。子どもどうしの関係性や課題もお互いわかっています。おとながよかれと思ってやっていることが、必ずしも子どもが求めるものとは限りません。まず子どもの意見を聞きましょう。そして、子どもを教育の対象としてとらえるのではなく、教職員も含む複数形の一人称「わたしたち」として、ともに学び、育つ関係をつくりましょう。
- 子どもは主権者です。教科学習、学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事、学校運営などが、子どもたちの意見をふまえたものとなっているか点検しましょう。そして、子どもの権利が保障される学校について話しあいましょう。権利を保障された子どもたちは、他の人の権利を尊重することを体験的に学びます。誰もが尊重され、認められる学校づくりをすすめましょう。
- 他の人が考えていることと、自分が考えていることは違って当たり前です。ある人は気づき、ある人は気づかないことも、よくあることです。ものの見方・考え方は一つでなく、様々です。「みんなと違う意見大歓迎！」といったクラスの雰囲気をつくりましょう。そして、様々な考え方を尊重しあい、それらを調整しながら、合意形成していく過程を大切にしたい学びの場をつくりましょう。

